

口腔生化学入門（半田 慶介）

Introduction of Oral Biochemistry（Keisuke Handa）

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 口腔分子細胞制御学
- ③ 慢性歯周炎
- ④ 全身疾患
- ⑤ 歯周組織再生療法

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

①,②

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

①,②,③,④

授業概要

歯周炎は動脈硬化症や骨粗鬆症など寝たきりや痴呆の原因となる疾患と同様、Quality of Lifeを著しく低下させる生活習慣病として位置づけることができる。また歯周炎の進行に伴って見られる歯槽骨吸収の機序は、関節リウマチの発症機序とも共通性がある。これらの事実から、慢性疾患である歯周炎が全身性疾患と密接な関連を持つことは、もはや疑いもなく歯周炎の発症機序と全身疾患との関連については早急な解明が待ち望まれている。これらの最新の研究成果に焦点をあてて講義をする。

授業科目の学修目標

本科目では大学院レベルにおいて必要な知識を修得することを目標とする。

授業計画

- ① 分子細胞学の意義と研究の基本と倫理規範
 - ・分子細胞学の研究手技の基本について 6コマ 半田慶介
 - ・倫理規範について 4コマ 半田慶介
- ② 口腔分子細胞学研究論
 - ・慢性歯周炎における免疫反応・分子生物反応について 5コマ 半田慶介
 - ・歯髄炎組織における免疫反応・分子生物反応について 5コマ 半田慶介
 - ・慢性歯周炎における骨免疫・分子生物反応について 5コマ 半田慶介
 - ・慢性歯周炎における全身に及ぼす免疫・分子生物反応について 5コマ 半田慶介

教科書および参考書

Molecular Biology of the Cell

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

細胞生物学に関する参考資料を熟読し、概要の理解が求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 分子細胞生物学の基本的研究方法を説明できる。
細胞生物学が関わる倫理規範を理解し応用することができる。
- ② 口腔分子細胞学研究論を理解し実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	0%	50%	20%	0%	30%	0%

評価の要点

レポートは、分子生物学の研究手技、口腔分子細胞学研究論の5項目について課題を提出する。10%×5回=50%
成果発表は、授業終了後に必要な研究方法に関してパワーポイントで成果発表する。20%×1回=20%
口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。1%×30回=30%

理想的な達成レベルの目安

理想的な達成レベルは80%以上とする。特に、倫理的な理解に関しては100%を求める。